

(様式3)

## 自己評価票

作成日 平成29年6月14日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892200015		
法人名	有限会社茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホームまごころ鹿嶋館	ユニット名	ひまわり
所在地	〒311-2223 茨城県鹿嶋市林1020番地3		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年2月24日	評価確定日	平成29年6月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりとゆったり関わりながら、入居者が自分でできることはやっていただき、共同生活の中でひとりひとりが役割を持ち生き生きと笑顔が見れる生活が送れるよう支援しています。また広々としたデッキでは車椅子の方でも外気浴を楽しんだり、家庭菜園で野菜を育て収穫した野菜などを食材として食卓に出したりしています。またおやつなども入居者と一緒に作ったり食べたりしています。入居者様同士が助け合いながら笑顔のある生活空間作りを心掛けています。また地域のイベント等に参加させて頂き地域の方々との関わりを深めながら明るく楽しく元気に生活しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者は他にも事業所を運営しているが、そこでの長所短所を踏まえて建物をコンパクトな設計にし利用者が生活しやすい工夫がされている他、職員が利用者を見守りやすく、円滑な業務が遂行出来る様にリビングから各居室の入り口が見渡せたり、リビングから繋がっている広いウッドデッキで洗濯物が干せる様になっている。

職員は利用者と一緒に、梅干しやらっきょうを手作りして食事に出したり、利用者個々の誕生日の日に手作りのデザートを提供し、全員でお祝いをしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念に基づいたケアを目指して全職員で取り組んでいる。	管理者でもある経営者と職員が作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を、玄関と相談室に掲示し、職員会議時に唱和して意識付けをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等に積極的に参加している。 また、定期的にボランティア（民謡、大正琴等）の方々と交流している。	交流のある地域福祉委員が地域の情報を提供してくれる。林地区の年4回の「ウェル西サロン（集会所）」でゲームや食事に利用者2～3名と職員が参加している。そこに区長や民生委員をしている婦人会の方々も来ており、情報交換をしている。鹿島祭りや鹿島神宮の菊祭りなどにも出かけている。 年4回大正琴やハーモニカの楽器演奏、年2回民謡、踊りのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域のイベントへ参加することで、地域住民の方々に入居者と触れ合ってもらい理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出た意見を取り入れ業務の改善に取り組んでいる。	家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員等、地域福祉委員等が参加し、奇数月の最終金曜日に実施している。 行事や利用者の状況、事業所の取り組み、外部評価の結果等を報告している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催案内を届けた時や運営推進会議に出席された職員等にホームの実情を報告したりして協力関係を築いている。	要介護更新申請時等に窓口を訪問したり、平均月1回程度は市の担当者に電話を入れ、情報交換をしている。運営推進会議のお知らせや議事録を、管理者が持参している。 開設後3年間は毎年実地指導があった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、全職員が理解に努めている。	職員は利用者に関わるかを検討することで、身体拘束をすることなく、穏やかに生活できると考えている。重要事項説明書の中でも身体拘束廃止に向けての取組みを明記している。 身体拘束排除に関するマニュアルはないが、年1回ミーティングの中で勉強会を行っている。 現在身体拘束は行っていないが、万が一に備えて同意書や経過観察記録、再検討記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者の虐待』についての勉強会を開催し、内容の理解と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『権利擁護』についての勉強会を開催し、内容の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は時間をかけて説明することを心掛け、利用者や家族に契約内容の理解と納得を得られるようにしている。特に利用料金等に関しては事細かに説明し不明な点が無いようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は普段の生活の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議に参加された時に、意見や要望を聞き出せるようにしている。また、年2回書面にて意見・要望を汲み上げている。	重要事項説明書の中に、サービス内容に関する苦情受付窓口を明記している。 年1回家族会を行い、意見を聴いている。不参加の家族等には書面で意見をもらっている。 利用料金を現金払いにしており、支払いに来所した際に意見を聴き取っている。全利用者の家族が最低月1回は来訪する。 スタッフの名前がわかるようにしてほしいという意見を受けてネームプレートを作った。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや申し送りの中で意見や提案を出してもらい話し合いをしている。また個人面談等で職員の意見・要望等を聞き出し仕事しやすい環境作りに取り組んでいる。	管理者は日頃から職員に声をかけるようにし、話しやすい雰囲気を作っている。 職員から、利用者の洋服の補正等に使用したいのでミシンを購入してほしいとの意見を反映し、購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇を取得できるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。研修会には職員の希望や経験年数も加味しながら参加できるようにしている。個々の目標作りや評価制度等を明確にして職員のやりがい作りを実施するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時は経験の有無に関係なく新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。また経験年数に応じて必要と思われる研修・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近辺のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、アセスメント情報等を基に積極的に関わりを持っていきながら利用者を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話する中で、家族の介護に対する不安や思いを聞き出したり、家族側の立場として色々相談にのることで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と懇談する中で、家族が不安に思っている事などを聞き出し、その改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	童謡や昔の歌を職員と一緒に歌ったり、時には家事を一緒にしたりしながら生活を共にしている。家庭菜園の水かけや家事を一緒に行いながら役割を持ってもらい、共に支えあう暮らしをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会やホーム行事等に参加して頂き、家族と一緒に食事やレクリエーションを楽しんだりしながら家族との絆を大切にしている。また家族とは家族交流会等で色々話し合いができるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。本人が慣れ親しんだ店に買い物や外食に出掛けたりしている。	入居時に本人や家族から聴き取りをしたり、日々の生活の中での会話や関わりから馴染みの関係を把握している。 面会者にお茶を出したり、家族等と自宅に行ったり、外食をしたり、馴染みの人や場所との関係を継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション・家事等を通し、利用者同士が声を掛け合ったり、一緒に行うことで楽しんだりしている。また孤立することのないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（長期入院・死亡等）しても、御見舞いにいたり、暑中見舞い、年賀状のやりとりをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話のなかで、希望や意向などを聞き出し、内容によっては随時職員と話し合い、本人・家族が望む生活が送れるよう話し合っている。また必要に応じて、家族・本人と話せる場をもうけて、希望や意向などを聞くようにしている。	利用者の表情や仕草、態度から思いや意向を読み取るように努めている。 個人記録に記載し、職員会議で周知するとともに、毎朝の申し送りで利用者一人ひとりの状況を報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴などを聞き出し、自宅いた時と同じような生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めながら今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事はしていただいている。また各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での気付き、本人・家族の希望や意向を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。介護認定の更新時や状態の著しい変化があった場合に一定期間後にモニタリングを行い評価結果も参考にしながら介護計画を作成している。	家族等や利用者の意向をもとに、計画作成担当者が作成した介護計画を職員や管理者が確認している。 モニタリングを3ヶ月に1回行い、1年で見直しをしている。 毎月行われるカンファレンスで一人ひとりの情報を共有し、必要に応じて見直しを行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化や日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録に残し、職員全体が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。その情報の中からその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菊花展や鹿島神宮参拝などに行き楽しんでいっている。お花見・花火大会・かしままつりなど、季節行事や地域で開催されるイベント等に参加できる機会を多く作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関を受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的に健康診断を受けている。	協力医療機関の外来へ職員が連れていく。耳鼻科や皮膚科なども適宜受診している。以前からのかかりつけ医を受診している利用者もいるが、基本家族等の付き添いで、家族等が行けない場合は職員が有料で付き添いをしている。受診結果は、家族等へは電話や来訪時に、職員間では個人記録や医療情報と呼ばれている受診ノートに記載して共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連携をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催し、チームケアを取り組むよう努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、同意書も整備しているが、現在人員体制が整っていないため、看取りは行っていない。 看取りは行っていないが、利用者が施設内で亡くなる事例が数件あり、その都度カンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアル(応急手当・急変時の初期対応)を基に勉強会を開催している。また、体調が急変した時は管理者に連絡し、状況により直に駆けつけられる体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施(年2回)。実施後には必ず振り返りを行い反省点等を記録し、今後の訓練に活かすようにしている。民生児童委員さんを通し、地域の方々に協力をえられるようはたらきかけをしている。	昨年1回スタッフと利用者のみで避難訓練を行い、反省会を行い課題について話し合い記録を作成している。 運営推進会議で地域住民の避難訓練への参加協力は求めているが、実現には至っていない。 備蓄品の一覧表は現在作成中であり、項目は記載があったが、前回のステップアップ事項であった個数や消費期限が記載されるまでにはいたっていなかった。	地域住民に協力を仰ぎながら、夜間想定等の避難訓練を年2回以上実施するとともに、備蓄品の一覧表の整備を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が職員間で共有できるようミーティング等で話し合い、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。入居者の希望により、自室ドア窓にプライバシーカーテンを取り付けプライバシーに配慮している。	名前の呼び方は苗字にさん付けが基本だが、利用者の反応の良い呼び方が苗字以外であれば、家族に了解をとって呼んでいる。 個人情報保護に関する同意書を作成しており、個人情報関係の書類は鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のちょっとした表情の変化や行動または発言に注意しながら、入居者への声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせ、塗り絵、カルタ取りやカラオケなど工夫した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着たり、時には職員と一緒に買い物に出かけ本人の好きな服を買ったりしている。また女性の入居者には外出時やボランティア来訪時、希望に合わせて化粧を行ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜を切ったりして食事の用意をしたり、食器拭きをしたりしている。また家庭菜園の野菜と一緒に収穫し食材として食べたしている。また本人や家族に嗜好を聞いて考慮した個別メニューも作って提供している。	朝と昼は職員が、夜は宅配業者が立てた献立を、利用者の好みに合わせて工夫をして調理している。 自家菜園の野菜を食材にしたり、苦手なものなどは代替食にしている。 利用者は野菜の皮むきやテーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。 毎月外食や行事食を楽しむなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また状態によっては、お粥・刻み食・トロミ食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い残物等が無いか確認している。また口腔ケアが自力でできるように見守りや声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレに行かれた時はプライバシーを損ねないように、声掛けや見守りを行っている。	排泄チェック表や個人記録から利用者の排泄パターンを把握し、そわそわする等のサインを見落とさずに誘導している。 おむつの当て方の講習会を開いた事で適切なおむつを選択できる等になり、利用者の不快感や尿漏れが減った。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取をしたり、食物繊維の多い食材を使ったりしている。また個別に歩行訓練等軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴日以外でも体調や希望に沿った入浴が出来るよう支援している。また本人に希望を聞き、一番湯や終り湯、足浴、入浴剤の使用などの工夫をしている。	基本週2回、午後となっているが、利用者の意向に沿っていつでも入浴できるようになっている。ゆず湯やしょうぶ湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また利用者の体調に合わせた休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合やリビングで寝ている時は和室や居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。また処方箋の変更や追加があった場合は医療情報に記入し、必ず全職員に変更連絡を徹底し、職員が入居者の服薬について正しく理解するようにしている。必要に応じ、医師と家族と本人に相談しながら薬を減らす取		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、畑仕事など役割を持ってもらい、生活に張り合いが持てるよう支援している。また、季節に沿った外出行事を楽しんだり、昔手作りした食材・食品（切り干し大根、梅干しなど）作りを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外食やドライブに出掛けたりしている。また散歩した時には近隣在住の方々との挨拶や会話を楽しんだりしている。本人の希望で行きつけのお店に行けるよう支援している。	散歩が困難な利用者はウッドデッキで日光浴をしている。 年間行事計画を立て、ウェル西サロン（集会所）に年4回訪れたり、鹿島祭りやあやめ祭り、コスモス祭り等に出かけたりする。職員が同行して、日常的に買い物に出掛ける。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が困難な利用者が多い為、必要な物や本人が希望するものは施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、個人で支払いできるように支援している。紛失の危険性を説明した上で、希望する利用者（家族同意）は個人で所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に自由に電話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾ったり、季節感のある小物なども置いている。また和室・ソファでゆっくりしたり談話しながら過ごしている。玄関・リビング・相談室等には入居者のご家族様の書いた絵画を飾ってあり落ち着いた雰囲気を演出している。天気が良い時はデッキに出て日光浴を楽しんでいる。	居間兼食堂にはメダカの入った水槽があり、利用者の家族が描いた油絵や利用者の似顔絵、折り紙作品が飾ってある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンデッキが広いので、車椅子でも自由にデッキに出入りする事も出来、気分転換をはかれる。和室、ソファを利用し、気の合った入居者同士、または一人になれるような空間作りを行っている。和室には趣のあるテーブルを置いている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人が家で使い慣れ親しんだイスや鏡台、タンスなどを持ち込んで使用していただいている。	エアコンやベッド、整理箆箆が備え付けられており、管理者は使い慣れたものを持参してもらえよう利用者と家族等に説明して、寝具類やテレビ、家族の写真、位牌などをそれぞれ持ち込み、居心地の良い居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分かるよう入口に大きな名前札を設置している。デッキ出入口に安全の為、背丈に合わせた飾りテープを貼りガラス戸があることがわかるようにしている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ鹿嶋館

作成日 平成29年 6月20日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定等の避難訓練が実施されていない。また備蓄品リストの整備。	地域住民の協力を仰ぎながら夜間想定等の避難訓練を実施する。備蓄品リストに賞味期限を記載する。	運営推進会議などの委員に協力を得られるようにする。また備蓄品リストに賞味期限を記載する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。